



2026年3月期 決算説明資料

証券コード:5367

目次

1 事業概要

2 中期経営計画

3 2026年3月期 決算概況

4 2027年3月期 業績予想

5 トピックス



事業概要

事業概要

セラミックスおよび計測機器・加熱装置の製造・販売を主な事業としており、品種別の主要な製品・商品は次のとおりです。

※2026年3月末時点

セラミックス 事業

機能性セラミックス

セラミックス発熱体、酸素センサ、燃料電池用部材、セラミックスフィルター



売上構成比
4.9%

耐摩耗セラミックス

粉碎用ボールおよび粉碎機用部材、各種摺動部材、ベアリングボール



売上構成比
48.1%

耐熱セラミックス

各種熱処理用チューブ・ローラー・保護管・絶縁管、熱処理用容器・部材



売上構成比
17.7%

理化学用陶磁器・その他

分析、研究用化学磁器、特殊耐火るつぼ、耐火断熱セメント



売上構成比
1.7%

エンジニアリング 事業

加熱装置

各種熱処理装置



売上構成比
5.7%

計測機器・その他

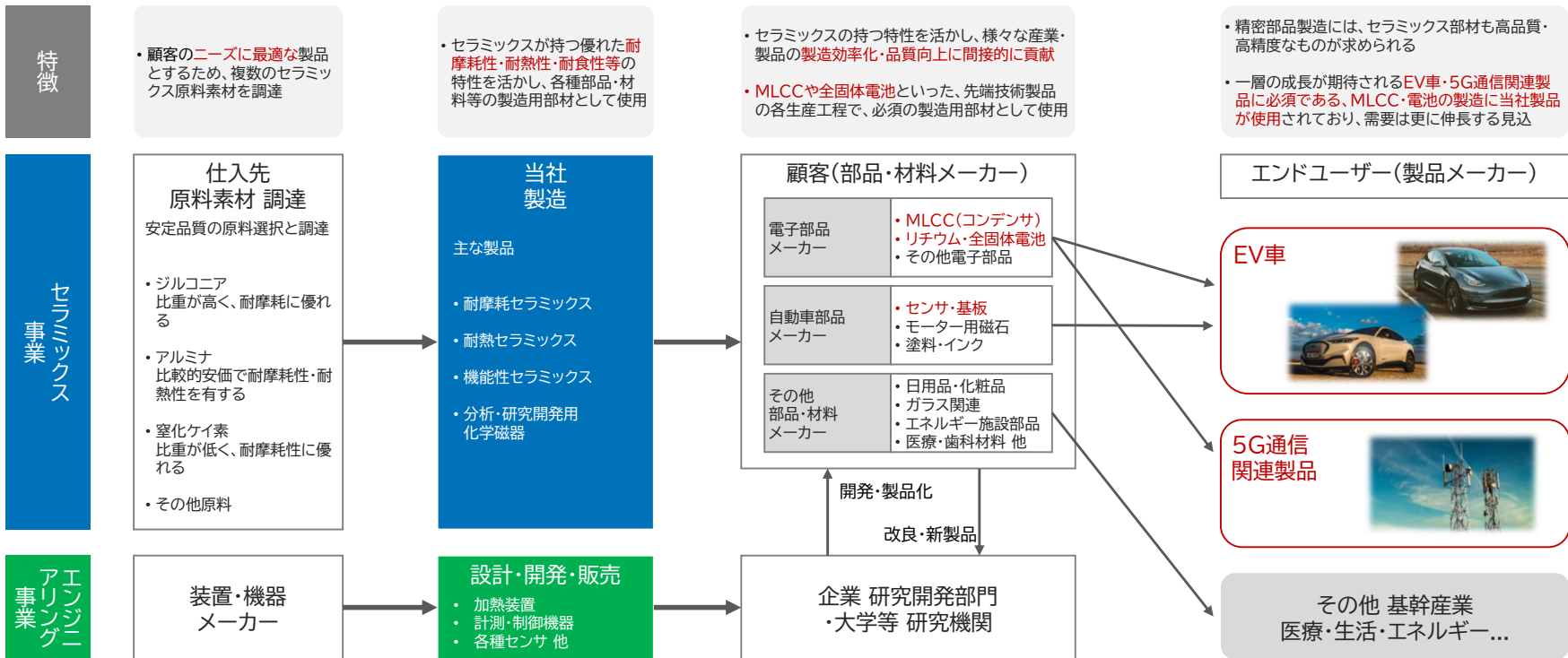
温度センサ、温度計測、制御機器・システム、応力測定機器、各種計測機器



売上構成比
21.9%

当社のビジネスモデル

- 最先端技術から基幹産業まで、**部品・材料メーカーの生産工程・研究開発**を、当社のセラミックス製品が製造用部材として使用されています。
- 当社主力製品の粉碎用ボールは、EV車や5G関連部品に使われる**MLCC(積層セラミックコンデンサ)**製造において、**デファクトスタンダード(業界標準品)**として位置づけられ、主要国内メーカーのトップシェアを占めています。





中期経営計画について

企業
理念

セラミックスと計測システムを通じて社会に貢献しよう

ニッカトーは創造性に富んだ信頼される商品の提供を通じて科学技術と産業の発展に寄与し、
企業の成長と発展を期し、親しまれる経営で社会に貢献する

経営ビジョン
目指す姿

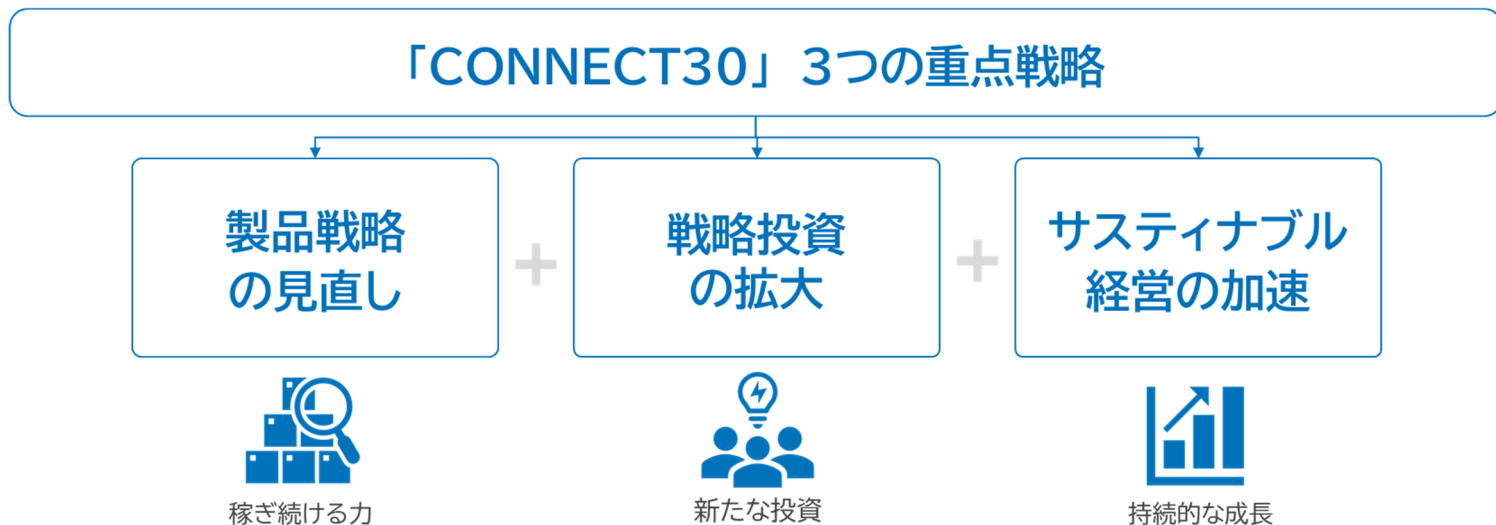
“Reliable Company”
時代に必要とされる企業

CONNECT30
スローガン

“まずやってみる、未来のために。”

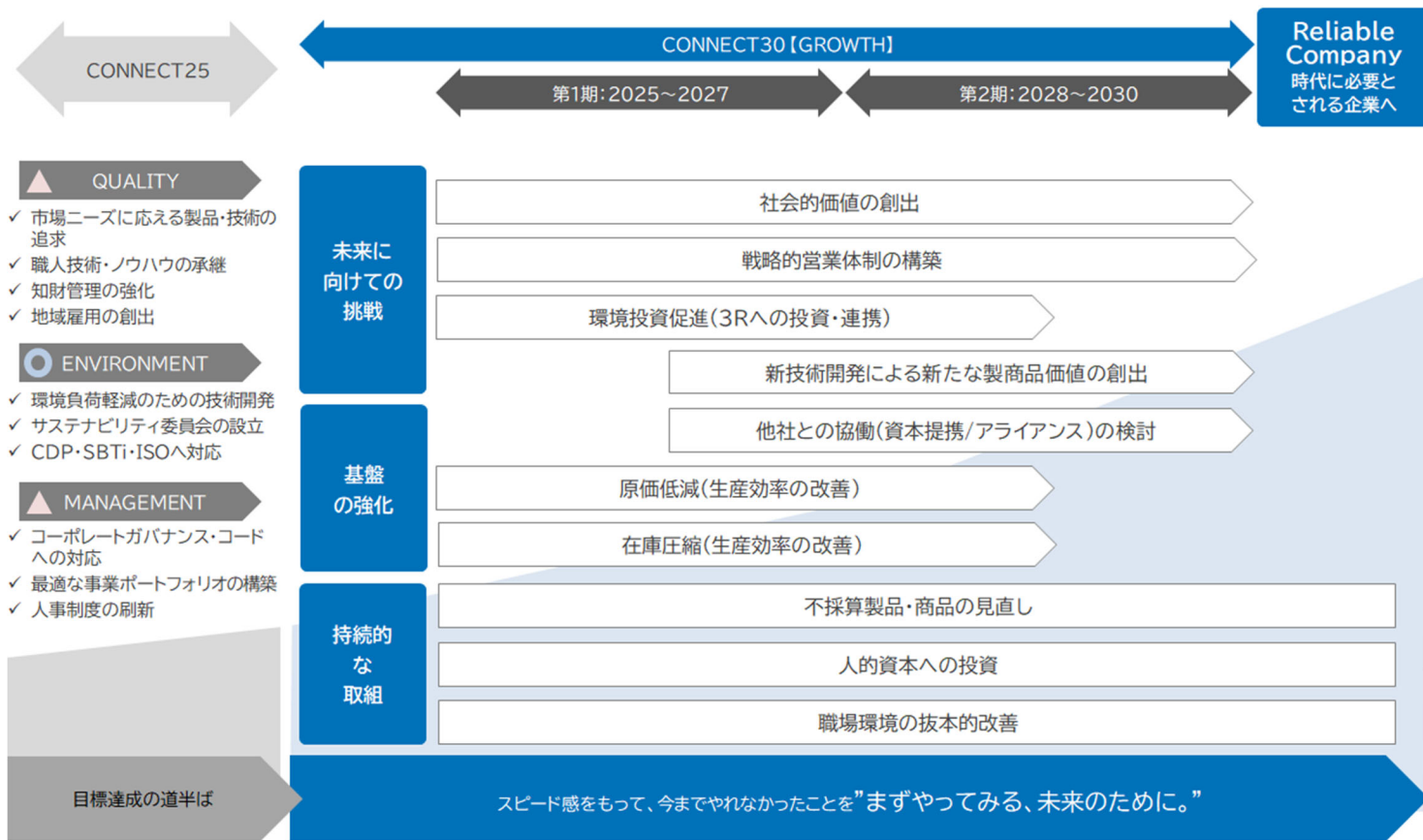
時代が変化していく中で、必要とされる企業だけが成長するように
従業員ひとりひとりが成長し、誇りを持って働ける会社にしよう

「CONNECT30」3つの重点戦略



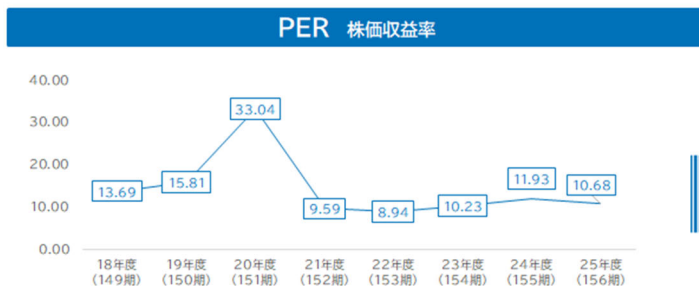
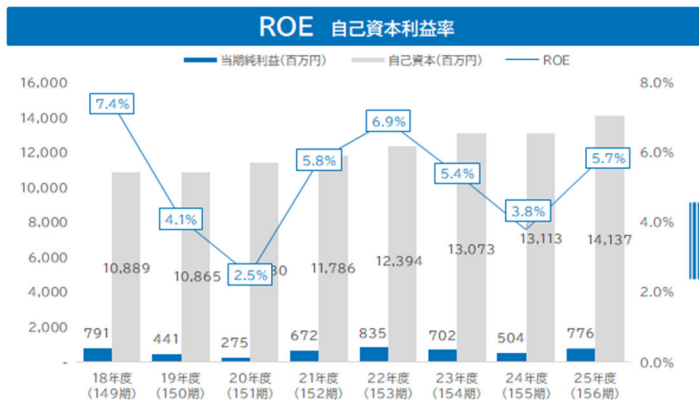
培い積み上げてきたニッカトーの強みを発揮し、
未来のためにチャレンジし続けることで、持続的な成長につなげる

「CONNECT30」3つの重点戦略



資本効率の向上に向けて

- ▶ 当社PBRは2026年3月末時点0.59倍前後と低位で推移しており、構成要素となるROE及びPERの両軸の改善に取り組む必要があります。
- ▶ 中期経営計画「CONNECT30」の達成により、収益性および資本効率の改善によるROEの目標達成、及び、安定的な配当継続に加え積極的な情報発信によるPERの目標達成により、PBRの向上を図ります。



中期経営計画「CONNECT30」の達成

収益性の改善

- ▶ 不採算製品・商品の見直し
- ▶ 生産効率向上
- ▶ 戦略的営業体制の構築
- ▶ 新技術開発による新たな製商品価値の創出
- ▶ 他社との資本提携/アライアンスの検討

資本効率の改善

- ▶ 環境投資促進(3R)
- ▶ 政策保有株式の縮減・見直し
- ▶ 人的資本への投資

成長戦略の積極的な発信

- ▶ 適時適切な情報開示
- ▶ 双方向コミュニケーション強化

株主還元の拡充

- ▶ 安定的な株主還元の追求
- ▶ 配当性向の維持・向上

ROE 自己資本利益率

目標 8%以上
(2030年度目標:10%)

PER 株価収益率

目標 13~15倍

PBR 資本効率配当性向の向上



2026年3月期 決算概況

決算ハイライト

セラミックス事業における電子部品業界の市況が回復傾向にあり、エンジニアリング事業は自動車・重機関連等を中心に設備投資が好調に推移。売上高は、前年比12.5%増の113.4億円。

営業利益については、前年比67.9%増の10.7億円となる。

2026年3月期 決算ハイライト

売上高

113.4億円

前年比 +12.5%(+12.6億円)

営業利益

10.7億円

前年比 +67.9%(+4.3億円)

経常利益

11.5億円

前年比 +59.2%(+4.3億円)

当期純利益

7.8億円

前年比 +54.0%(+2.7億円)

研究開発費

3.1億円

前年比 +21.9%(+0.6億円)

人材投資

0.2億円

前年比 +111.2%(+0.09億円)

P/L概要

セラミックス事業における電子部品業界の市況が回復傾向にあり、エンジニアリング事業は自動車・重機関連等を中心に設備投資が好調に推移。売上高は、前年比12.5%増の113.4億円で着地。

その結果、営業利益はセラミックス事業、エンジニアリング事業共に伸長し、前年比67.9%増と大きく成長。

(単位:千円)	2025年3月期		2026年3月期		対前年		通期業績予想	
	実額	売上比	実額	売上比	増減額	増減率	予想	達成率
売上高	10,076,578		11,340,906		1,264,328	12.5%	10,140,000	111.8%
売上原価	8,054,175	79.9%	8,766,993	77.3%	712,818	8.9%	7,734,000	113.4%
販売費及び一般管理費	1,384,570	13.7%	1,502,748	13.3%	118,178	8.5%	1,440,000	104.4%
営業利益	637,832	6.3%	1,071,164	9.4%	433,332	67.9%	966,000	110.9%
経常利益	719,756	7.1%	1,145,829	10.1%	426,073	59.2%	1,009,000	113.6%
当期純利益	503,567	5.0%	775,702	6.8%	272,134	54.0%	706,000	109.9%
研究開発費	256,807	2.5%	312,941	2.8%	56,134	21.9%	-	-
EPS(円)	42.16	-	64.90	-	22.74	-	-	-
ROA(%)	2.9	-	4.3	-	1.4pt	-	-	-
ROE(%)	3.8	-	5.7	-	1.9pt	-	-	-

増収増益

事業セグメント別業績

- セラミックス事業は、受注増により工場稼働率が改善し、売上原価率が低減したことで、セグメント利益が前年比86.0%増の834,469千円で着地。
- エンジニアリング事業は、自動車・重機関連等を中心に設備投資が好調に推移し、計測機器の利益率改善効果が大きく、セグメント利益が前年比25.0%増の236,694千円で着地。

(単位:千円)	2025年3月期	2026年3月期	前年比
セラミックス事業			
セグメント売上高	7,405,514	8,215,444	10.9%
－機能性セラミックス	451,792	558,542	23.6%
－耐摩耗セラミックス	5,075,771	5,457,099	7.5%
－耐熱セラミックス	1,678,669	2,007,903	19.6%
－理化学用陶磁器他	199,280	191,899	-3.7%
セグメント営業利益	448,532	834,469	86.0%
セグメント利益率	6.1%	10.2%	4.1pt
エンジニアリング事業			
セグメント売上高	2,671,063	3,125,461	17.0%
－加熱装置	786,907	641,717	-18.5%
－計測機器・その他	1,884,156	2,483,744	31.8%
セグメント営業利益	189,300	236,694	25.0%
セグメント利益率	7.1%	7.6%	0.5pt

セラミックス事業

増収増益

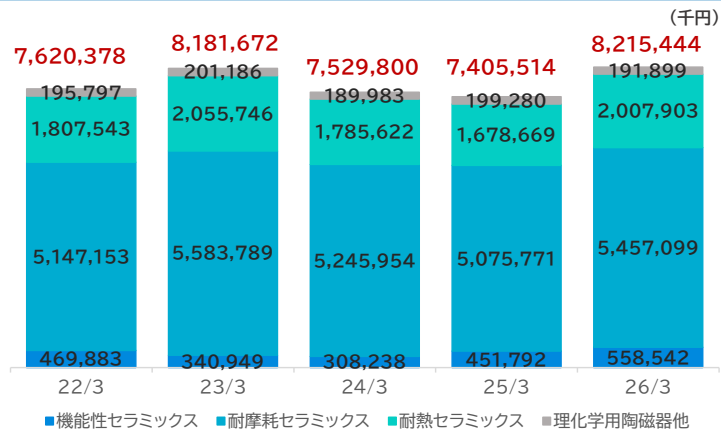
エンジニアリング事業

増収増益

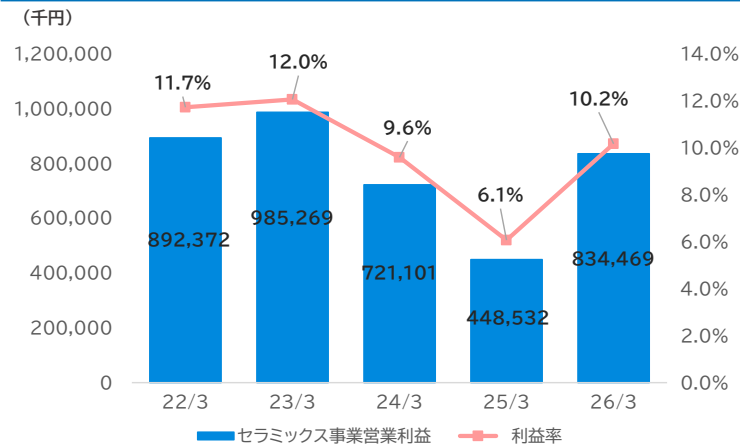
セラミックス事業の実績

- 主力の電子部品業界の市況回復に伴い、受注増による工場稼働率も改善。
- 不採算製品の見直しに着手。

品種別売上高の推移



営業利益の推移



●主なマーケット

一般電子部品



構成比 55.4%

化学



構成比 9.5%

環境・エネルギー



構成比 3.6%

バイオ



構成比 3.5%

自動車・重機



構成比 2.8%

その他

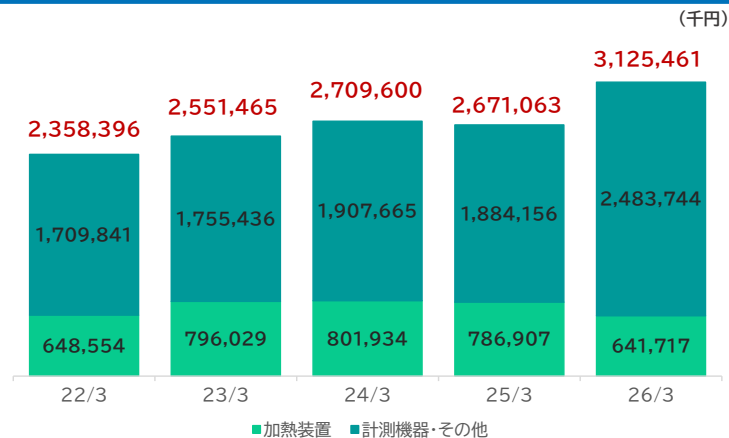


構成比 25.2%

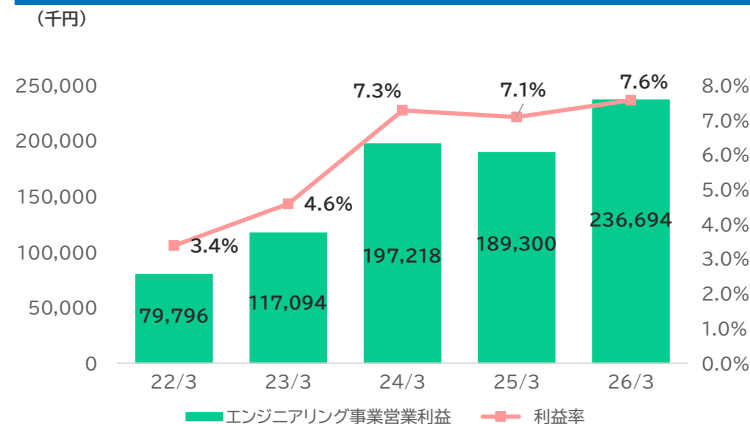
エンジニアリング事業の実績

- 自動車・重機関連等を中心に設備投資が好調に推移した結果、売上高が伸長。
- 粗利益率は高水準を維持。計測機器・加熱装置の売上伸長により粗利金額も高水準を目指す。

品種別売上高の推移



営業利益の推移



●主なマーケット

自動車・重機



構成比 38.4%

一般電子部品



構成比 21.0%

半導体



構成比 12.5%

環境・エネルギー



構成比 11.8%

鉄鋼



構成比 7.9%

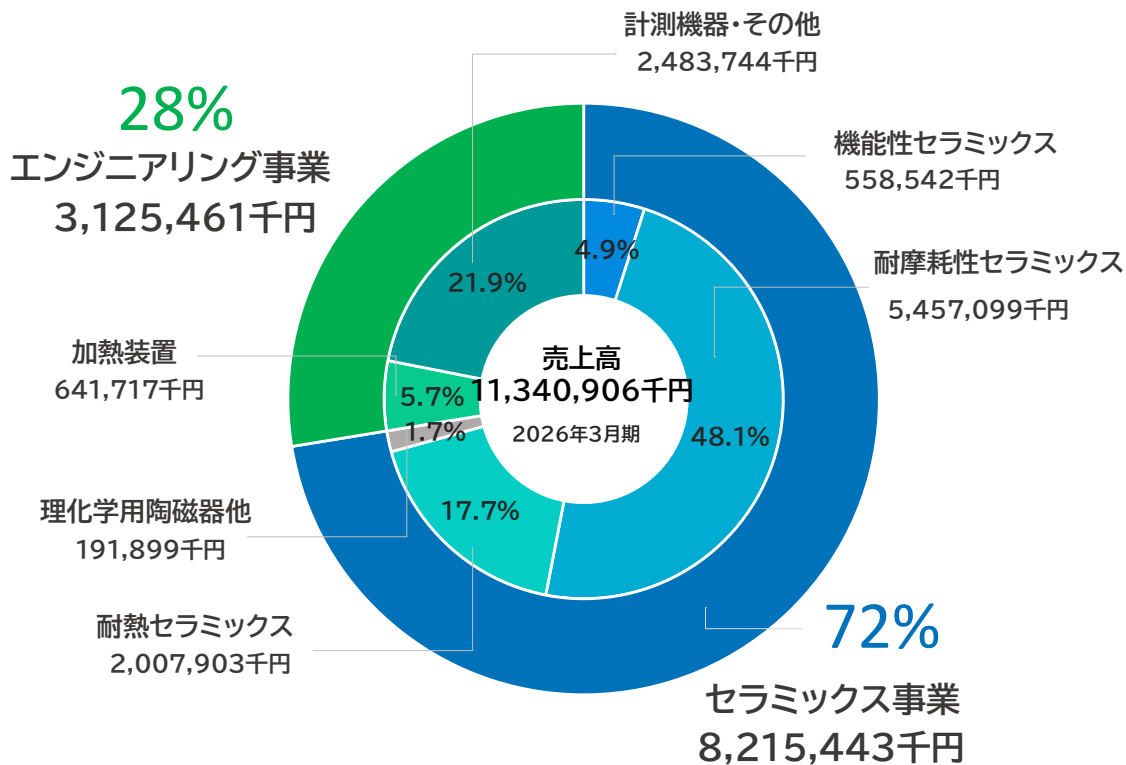
その他



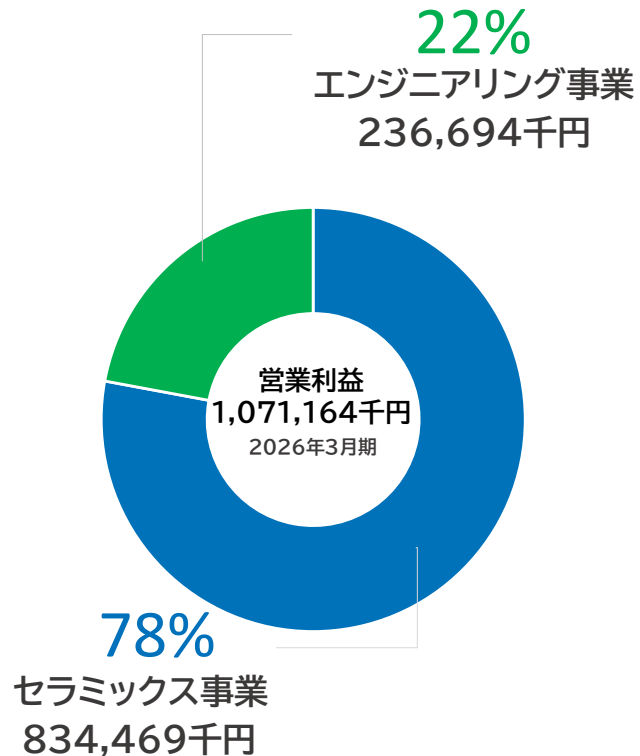
構成比 8.4%

セグメント別売上高・営業利益構成比

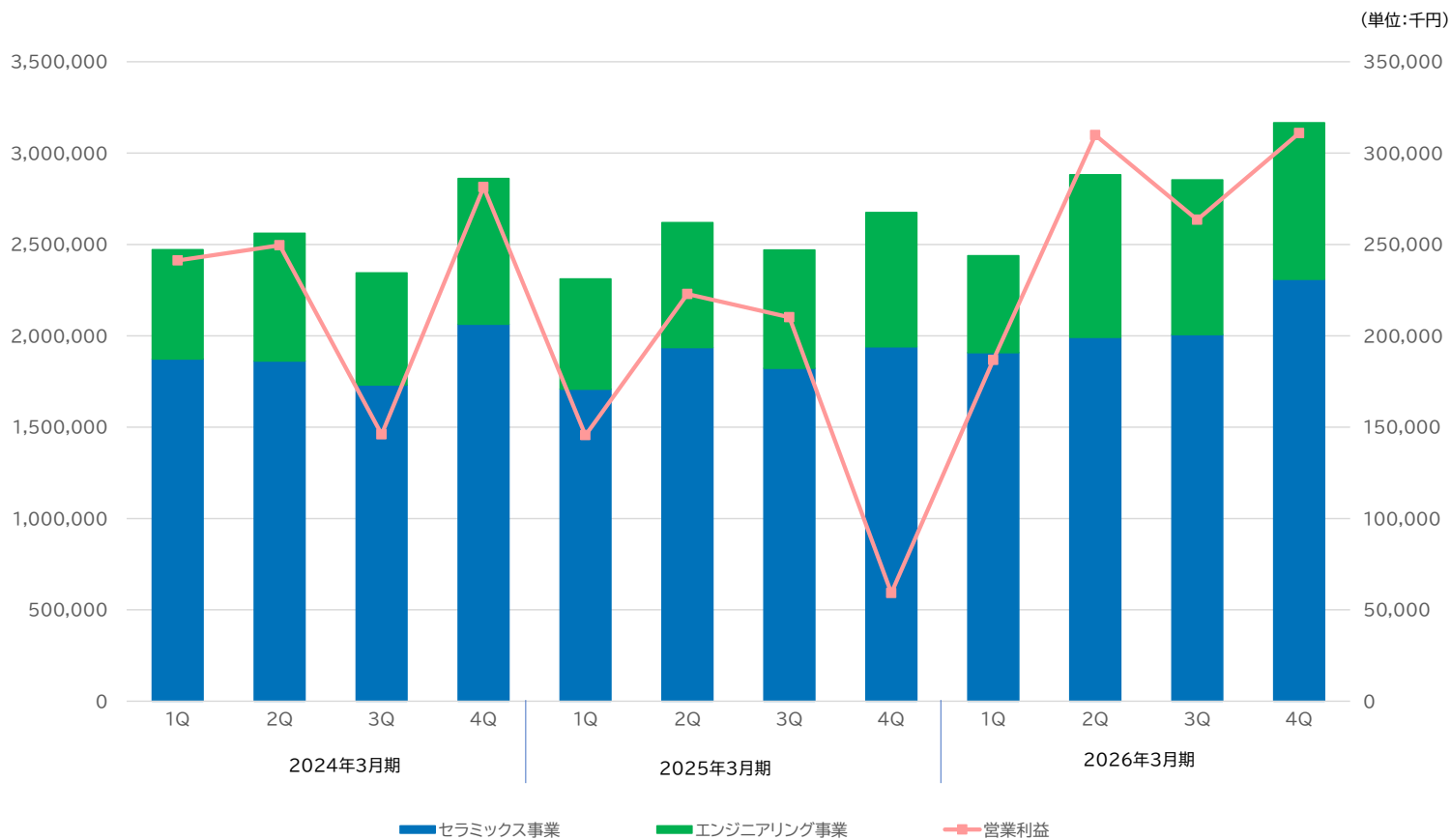
セグメント別売上高構成比



セグメント別営業利益構成比

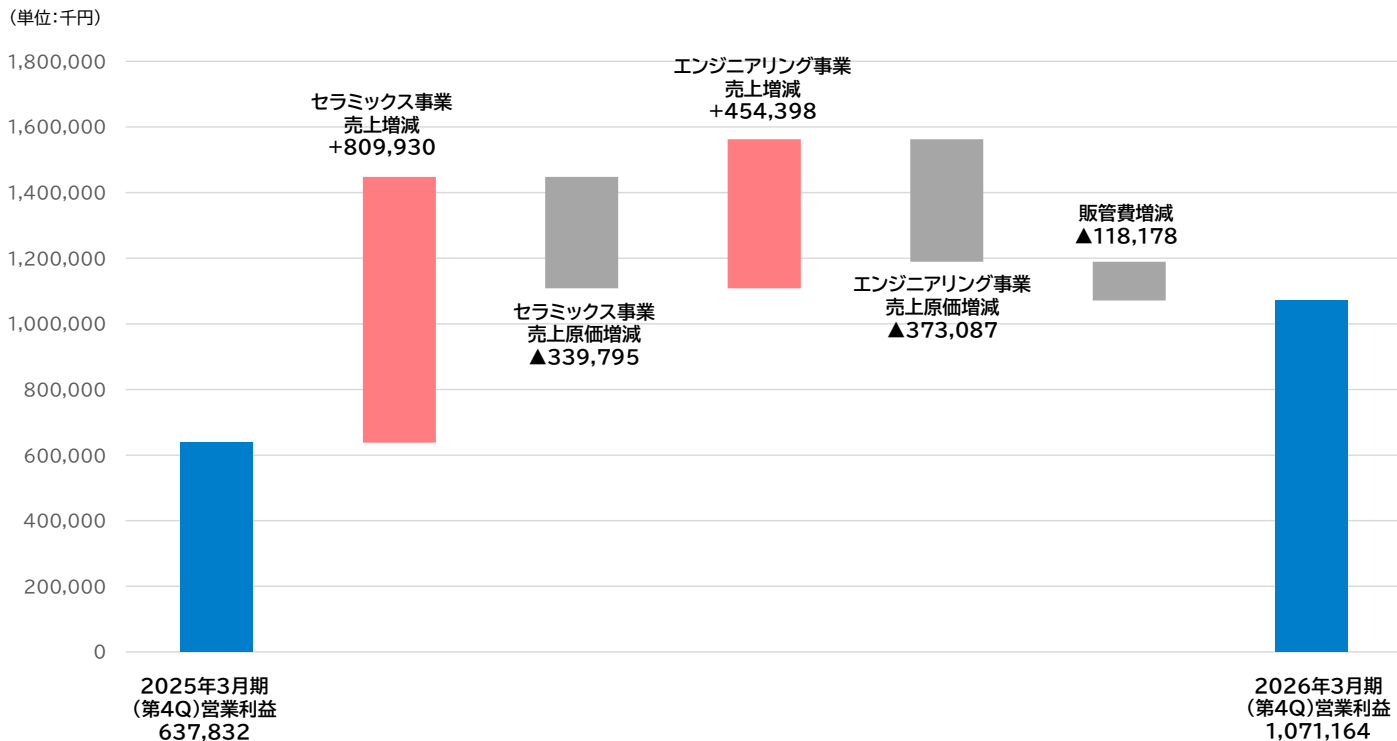


四半期売上高・営業利益推移



営業利益増減要因

- セラミックス事業における主力の電子部品業界の市況が回復傾向に伴い、受注増による工場稼働率も改善。エンジニアリング事業は半導体・電子部品向けを中心に計測機器類が好調に推移。全社的には前年比67.9%増益の1,071,164千円となる。



B/S概要

	25/3末	26/3末	増減率		25/3末	26/3末	増減率
流動資産	10,091,569	10,998,740	9.0%	流動負債	3,496,139	4,115,384	17.7%
現金預金	3,642,551	4,137,970	13.6%	買掛債務	1,949,691	2,266,384	16.2%
売掛債権	3,455,096	3,952,865	14.4%	短期借入金	614,392	506,452	△ 17.6%
棚卸資産	2,970,242	2,877,223	△ 3.1%	その他	932,055	1,342,548	44.0%
その他	23,678	30,682	29.6%	固定負債	515,355	600,896	16.6%
				長期借入金	106,452	-	△ 100.0%
固定資産	7,033,285	7,854,491	11.7%	その他	408,903	600,896	47.0%
有形固定資産	4,854,889	4,799,951	△ 1.1%	純資産	13,113,360	14,136,950	7.8%
無形固定資産	83,055	77,768	△ 6.4%	株主資本	12,477,613	13,004,555	4.2%
投資その他	2,095,340	2,976,771	42.1%	評価・差額等	635,746	1,132,395	78.1%
資産合計	17,124,855	18,853,231	10.1%	負債・純資産合計	17,124,855	18,853,231	10.1%

・流動資産 売掛債権

増収により増加

・固定資産

有形固定資産 減価償却により減少
無形固定資産 減価償却により減少
投資その他 投資有価証券の評価増により増加

・流動負債 買掛債務

受注増加に伴う仕入増による増加

・純資産 評価・差額等

投資有価証券評価増により増加

	25/3末	26/3末	増減金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,676,675	1,675,324	△ 1,351
税引前当期純利益	717,534	1,110,852	393,318
減価償却費	655,778	680,907	25,128
棚卸資産の増減額	△ 55,169	93,019	148,189
その他	358,532	△ 209,455	△ 567,988
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 925,637	△ 710,293	215,344
有形固定資産の取得	△ 895,760	△ 527,840	367,920
その他	△ 29,877	△ 182,453	△ 152,575
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 493,090	△ 469,612	23,478
配当金の支払額	△ 277,584	△ 254,403	23,180
その他	△ 215,506	△ 215,208	297
現金等の増減額	257,947	495,418	237,471
現金等の期末残高	3,642,551	4,137,970	495,418

・営業CF
 その他
 増収による売上債権の増加に伴い減少
 法人税等支払額の増加に伴う減少

・投資CF
 その他
 政策保有株式の見直しによる減少

・財務CF
 配当金の支払額
 配当金21円

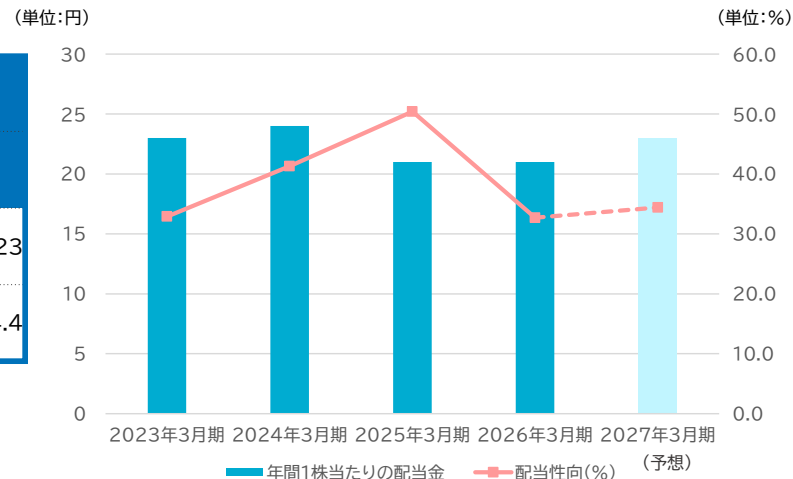
株主還元(配当金)

当社は、経営資源の効率的な運用で企業基盤と財務体質の強化を図り、株主のみなさまへの中期的な安定した配当の維持に努め、適正な利益還元を行うことを基本としております。

利益配当につきましては、上記観点から配当性向は30～50%を目安として配当金を決定し、株主のみなさまのご期待に沿うように努めてまいります。

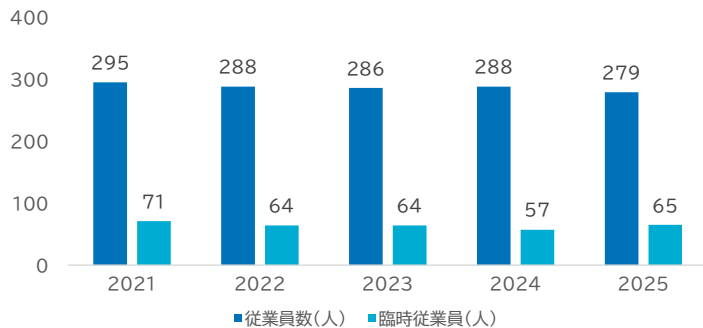
配当金の推移

	実績				予想
	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	2027年 3月期
年間1株当たりの配当金	23	24	21	21	23
配当性向(%)	32.9	41.3	50.4	32.4	34.4

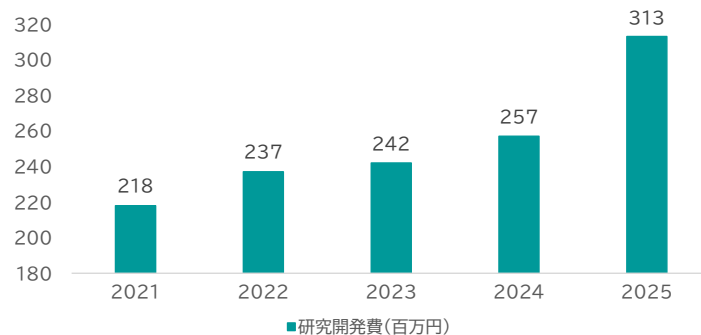


その他企業データ

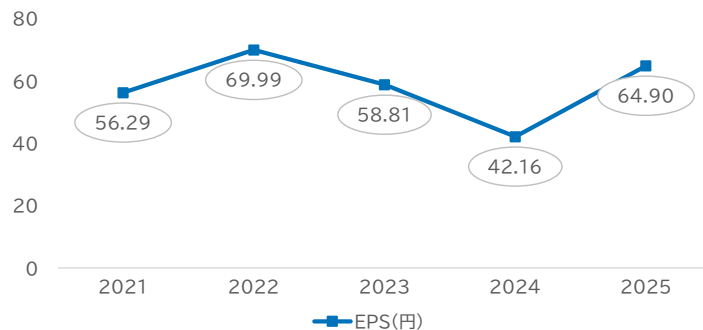
従業員数の推移



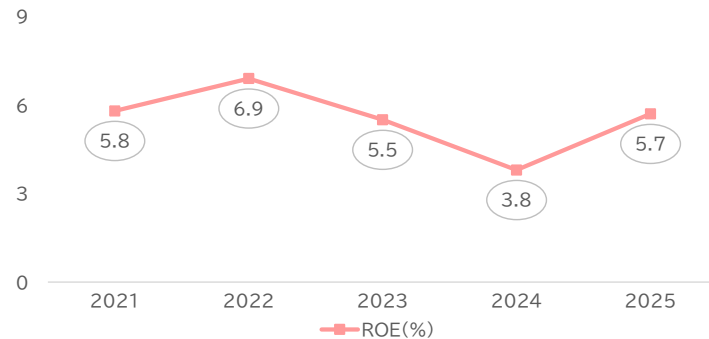
研究開発費の推移



EPSの推移



ROEの推移





2027年3月期業績予想

2027年3月期 業績予想

「CONNECT30」の達成を見据えて、持続的な成長の基盤の強化を最優先とし、取り組むべきことを決め、「まずやってみる」ことで、変化していくことが重要。売上高11,000百万円、営業利益1,100百万円を予想。

(単位:千円)	2026年3月期(予測)		2026年3月期(実績)		対予測比	2027年3月期(予想)	
	金額	売上比	金額	売上比	達成率	金額	売上比
売上高	10,140,000		11,340,906		111.8%	11,000,000	
売上原価	7,734,000	76.3%	8,766,993	77.3%	113.4%	8,340,000	75.8%
販売費及び一般管理費	1,440,000	14.2%	1,502,748	13.3%	104.4%	1,560,000	14.2%
営業利益	966,000	9.5%	1,071,164	9.4%	110.9%	1,100,000	10.0%
経常利益	1,009,000	10.0%	1,145,829	10.1%	113.6%	1,150,000	10.5%
当期純利益	706,000	7.0%	775,702	6.8%	109.9%	800,000	7.3%



トピックス

「社長名鑑」インタビュー掲載

弊社代表取締役社長：大西宏司が『社長名鑑』に掲載され、40年近く携わってきた主力材料「YTZジルコニア」の開発経験から得た技術者としての信念や100年以上にわたって培ってきた当社の技術力・オーダーメイド対応力が取り上げられました。また、若手技術者が幅広い工程にたずさわれる育成環境について紹介されました。

掲載URL : <https://shachomeikan.jp/industry article/5574>



こちらからどうぞ





株式会社ニッカトー



<https://www.nikkato.co.jp/>

上記URLから、当社ホームページをご覧ください。

ご留意事項

本資料に記載いたしております業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分にリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。